

株式会社ミュージックバード 第53回番組審議会議事録

1. 開催日時 平成24年3月7日(水) 15時00分～16時30分

2. 開催場所 TOKYO FM 10階 大会議室

3. 出席者

◆番組審議会委員

- ・矢内 廣 委員長
 - ・松尾 修吾 副委員長
 - ・小川 修武 委員
 - ・中西 健夫 委員
- (ご欠席：福本 ゆみ 委員)

◆放送局

- ・一瀬 社長
- ・山川 コミュニティ&ネットワーク部長
- ・雄谷 コンテンツ事業部長
- ・江森 技師長
- ・佐藤 監査役
- ・田中 プロデューサー
- ・事務局 高木

4. 議事概要

今回は、KAYO&ENKA チャンネルの番組「川崎浩の歌謡ルネサンス」
(金 19:00-20:00 出演：川崎浩 ゲスト：由紀さおり) について審議が行われた。

- ・かつて、日本の流行歌＝歌謡曲という時代がずっと長くあり、その「歌謡曲」の中には、世界中のいろいろな音楽の要素や日本の伝統的なものが入り混じり、一つの大きな潮流が出来ていた。その後次第にジャンルの縦割りのようなことが起こり、J-POP と演歌が全く別のものとして扱われるようになった。そうして演歌はステレオタイプのものとして閉塞的に捉えるようになってしまったわけだが、この番組を始めた10年くらい前にやっと、違う形でやってみたいという歌謡曲の歌手の方達が出てきて、この「歌謡ルネサンス」というタイトルを付けた。
- ・最近の由紀さおり氏の活動は、まさにその「歌謡ルネサンス」という言葉が焦点を結んだような感がある。川崎氏には、常に演歌の閉塞感を打ち破っていくようなイメージでやってもらっている。

ということが放送局側から説明され、これに対して委員からは、

- ・由紀さおりさんが話題になったからやっているのではなく、かなり昔から関わりがある様子。そういう雰囲気が感じられた。
- ・素直に楽しく番組を聴いた。本当に由紀さんの声質は透明感がある。
- ・アニメや漫画などの日本文化自体が海外で受けているので、今回のヒットはタイミングがぴったりであったのだろう。ただ、由紀さおりさん単独でなく、ピンクマルティニーニがいたから売れた、というのも事実だろう。
- ・改めて聴くと、歌謡曲はよく出来ていると感じる。今は皆歌い手が自作しているが、やはり職業作家が作っている、職業作家の良さというものがある。西洋を物真似しつつ日本のテイストもある。こういうジャンルは日本にしかないと思う。歌謡曲を世界に広めたいものだ。

等の助言があった。